

ストーム

ゝ 学祭の打ち上げでよみがえる
鹿大生時代のよき思い出 その3 〳



串田 達治

私が執行部を務めている福岡県土地家屋調査士会久留米支部の定時総会を間近に控え、出欠や委任状・質問状等への対応にうんざりしていた四月下旬頃、炬ばたセイ談の編集を担当されている下土橋さんから直々に原稿募集の依頼が届いた。

ちよつと待って。読者の皆様には思い出し
てみてほしい。昨年私は「南国ギャンブラー」
と題した競馬ネタを寄稿した。執筆経験ゼロ
の素人がとりとめもなく書いた文章にもかか

わらず編集カットされることなくほぼ原文そのまゝ十四ページにわたり掲載されてしまったのだ。

十四ページですよ!!

第二十号発行記念として巻末を飾った祖母入来院貞子の「渋谷氏五族の消長」十八ページに次ぐ長さである。しかも私の原稿には写真が一枚もない（本当は当時のハズレ馬券の写真でも掲載できればより臨場感が高まってよかったと思うのだが、そんなもん現場ですぐ破り捨てた）ので、最終頁の下段にはかわいらしい競走馬のイラストが添えられていてほっこりした。編集長ありがとうございました。

とにかく前号では実質一番紙面を費やし

てしまったのでさすがに今回は辞退するつもりでとりあえず原稿依頼が届いた旨を母にメールしたら、どうも私の駄文が読者の皆様にとって程よい息抜きコーナーになっているそうで（笑）、逆にそう言われてしまうと天邪鬼な性格の私は、なら今年は文調をガラッと変えてみようと思ったりするのだが、夏の参院選を目前に控えた七月五日現在、政権与党が頑なに反対する消費税減税に何故財源が必要なのか？などというテーマで政治評論をいきなり書けるはずもなく、だからと言って鹿大生時代の思い出ネタにも限界はあり、まさか鹿児島大学名誉教授であられる中西喜彦会長のお膝元に、当時担当教授からの度重なる催促をのりくくり交わしながら卒論提出をバックれることに成功した武勇伝をお届けするわけにもいかない。

結局これといったテーマが思いつかないままここまで徒然とキーボードを叩いてみたのだが、やっぱり鹿大生時代の思い出としてパっと思いつくのは四年間全力で取り組んだサークル活動の中でもとりわけ、団員仲間と輪になって大声を出したあの光景だ。初めて目の当たりにした時カルチャーショックに近い衝撃を受けたので二十数年たった今でもよく覚えている。そうそう、あの野蛮で独特な儀式は確かこう呼ばれていた。

「ストーム」と。

何度も繰り返して恐縮だが、私は平成十三年に鹿児島大学農学部に入學し、入学式を終えた数日後に鹿大混声合唱団ポリフォニー・コールという音楽サークルに入団した。新入生歓迎時期ということで入団前から数人の先

輩方に連れられて大学近くの飲み屋やらカラオケ屋にて過剰な接待を受けていたのだが、四月下旬に入団式といってそれまで個々に入団の手続きを済ませた一年生及びサークルのメンバーが一堂に会する行事があり、式後の懇親会もそろそろお開きになろうかという時に人生で初めてストームなるものを目の当たりにした。

ポリフォニー・コールの部室は私が卒業した数年後には校舎の中に移ったみたいだが、当時は鹿児島市電の純心学園前駅から降りて三十メートルほど北に行ったところ、大学敷地を囲うフェンスをまたいで（よい子はまたいではいけません。不法侵入になります）すぐの運動場の隅っこに佇むプレハブ小屋であった。ちなみにこの部室、令和四年に入来に遊びに行った際に妻と三男坊を連れて久々に鹿大を訪れた時は史跡のようにまだかろうじ



かつてポリフォニー・コールの部室だったプレハブ小屋（令和4年撮影）

て存在していたが、今グーグルのストリートビューで見えてみるとようやく取り壊されたみたいである。

そのおんぼろ部室前の広場で急に先輩たちが大きな輪をつくり、いったい何が始まるのか困惑した表情の我々新入生もその輪の中に強制的に入れられた。すると突然、当時のサークル代表である主将が焼酎瓶を片手に大声で叫び始めたのだった。

「ストームいかせていただきます!!」

いきなり焼酎をラッパ飲みしたかと思いきや周囲から合いの手を入れられながら自分の出身高校、所属学部、サークル内の役職を大声で叫び終わると隣の正指揮者に焼酎瓶を渡す。渡された正指揮者は間髪入れずに焼酎をラッパ飲みした後同様に自己紹介。しかも

途中で言葉に詰まると粗相と囃し立てられ、再度飲むところから始めなければならないといった罰ゲームのようなルールも存在するみたいだ。無事叫び終わったら隣のマネージャーに焼酎を渡す。以下同様に繰り返し。混声合唱団なので当然男女関係なく、主将から輪の順に自身の学歴を叫びながら焼酎の回し飲みが延々と目の前で繰り広げられたのだ。

私の拙い文章力では限界があるが、この後あれと同じことをしないとイケないとの場の空気で察した我々新入生の気持ちだが、徐々に焼酎瓶が近づいてくるあの恐怖感が少しでも読者の皆様に伝われば幸いである。だってまだよく知りもしない不特定多数の人たちと間接キスしなきゃいけないだよ!!

実際にその輪の中にいた私が受けた衝撃は相当なもので、急に何か変な宗教の儀式が

始まってしまったのではないかとその場から逃げ出したくなったのだが、異様な雰囲気のにまれて足が動かない。そうこうしているうちに自分の番になってしまった。ここまできたらもう観念するしかない。一升瓶を手渡されると不思議と覚悟が決まってしまい、見様見真似で一言も囁むことなくストームなるものをやり遂げて先輩方から拍手喝采を浴びたこの瞬間、本当の意味で晴れてポリフォニー・コールの団員の一人となれたのだ。

まあ私はあの入来院久子の長男でございますので肝は小さい方ではなく、一度体験してしまえば何事もなかったかのようにすんなり受け入れることができたのだが、この入団式の直後に二十人はいた一年生の半数以上は姿を消した。合唱がしたくて残ったほかの一年生も最初はなかなかこのストームに馴染め

なかったみたいだが（特に女性）、そこは音楽系サークルとはいえさすが鹿児島。毎月のように開催される飲み会で毎度毎度ストームが繰り返されると、重たそうに一升瓶を両手でなんとか抱えて小声で聞き取れない自己紹介をしていた一年女子も十一月の鹿大祭を迎える頃には片手で瓶を振り回しながら奇声を発するようになっていたので経験というものはすごく大事である。

（参考）ポリフォニー・コール年間行事

四月…入団式

五月…新入生歓迎合宿

六月…男性コンパ&女性コンパ

七月…七夕コンパ

八月…合唱コンクール打ち上げ

九月…演奏旅行打ち上げ

十月…月見コンパ

十一月…鹿大祭

十二月…クリスマスコンパ

一月…成人コンパ&定期演奏会打ち上げ

二月…四年生企画旅行打ち上げ

三月…卒団式

ところで、ここまで長々と紹介してきたこのストーム、鹿大祭になると盛り上がり方がさらに数段上がる。私が学生の頃は初日に各サークル・部活ごとに神輿を作って市内を練り歩いたり、ポリフォニー・コールでは早朝にお茶漬け、日中はサーターアンダーギーと呼ばれる沖縄由来の揚げ菓子をそれぞれ販売したり、学内でアンサンブルをしながら勧誘したりと三日間常にアルコールを補給しながら連日朝早くから夜遅くまで、当番によっては翌日の仕込み等もあるので下手したら徹夜で活動していた。当時は若さで乗り切っていた

のだろうがとにかく他のサークルの催し物も豪華だったし、イベント盛りだくさんで毎年とても楽しかった。

そして疲労と二日酔いがピークになった頃に迎えるのが学祭打ち上げである。ふだんの飲み会ではどれだけ飲んでも顔色ひとつ変えない酒豪たちがあちらこちらで泣き上戸、笑い上戸、怒り上戸、絡み上戸に脱ぎ上戸と化し、体力の限界を迎えた者たちが次々と屍になっていく。それら亡霊たちを無理やり叩き起こし、最後の気力を振り絞って焼酎瓶を手にしながら円になり、ストーム後は皆で肩を組んで「北辰斜に（ほくしんななめに）」を大合唱するのである。

この北辰斜にとは、鹿大の前身校のひとつである旧制第七高等学校造土館の寮歌であり、鹿大の入学式でも演奏される。ポリフォニ

ー・コールではこの北辰斜にを全員で合唱する前に当時の主将が「巻頭言」と称する口上を唱えるしきたりとなっていた。少し前のページでさらっと書いたようにストーム中では言葉に詰まったら粗相とされるのだが、そもそも完全にできあがってしまっていて呂律もうまくまわらない状態で自己紹介に続きこの巻頭言まで一気に唱えるのは至難の業だ。私は三年生だった平成十五年の前期・後期の主将をつとめたが、ただでさえ普段あまり活舌がよろしくないためこの年の学祭打ち上げで致命的な粗相を何回か犯してしまった。粗相をすると焼酎のいっき飲みから強制的にリスタートとなるため文字通り命に係わるのである。

さて、ここでページ数を一気に稼ぐため一連の学祭ストームを文字おこしして皆さんに

体感してもらおうと思う。くどいようだが途中で嘔むとエンドレス焼酎地獄となる。

みなさん学祭お疲れさまでした!! 宴もたけなわですが、ここでストームいかせていただきます!!

いよっく!! (合いの手)

・・・ぐびぐびぐび(飲んでるふり)

押忍!! 香川県立三木高等学校出身!!
おつす

めいもいもいも!!

※基本どこ出身でも名門と合いの手を入れてもらえるが、なぜか指宿高校だけは開聞岳にちなみ、かゝいもいもいもと変化する。

河合塾大阪校一年経由!!

おつかれさうん!!

鹿児島大学農学部生物資源化学科生命機能化学コース三年、鹿児島大学混声合唱団。ホリフォニー・コール主将の串田達治です!!
よろしくお願いします!!

拍手!!

大正四年、第七高等学校造士館、第十四回記念祭歌北辰斜に巻頭言!!

いよっ!!

流星落ちて住む処

橄欖（かんらん）の実の熟るる郷

あくがれの南（みんなみ）の国に

つどいし三年（みとせ）の夢短しと

結びも終えぬこの幸を

或いは饗宴（うたげ）の庭に

或いは星空（せいや）の窓の下に

若き高ろう感情の旋律をもて

思いのままに歌い給え

歌は悲しき時の母ともなり

うれしき時の友ともなれ

いざや歌わんかな 北辰斜めを

いざや舞わんかな かの国土の舞を

アイン、ツヴァイ、ドライ!!

…いかがでしたか？

ここまで無事唱えられたらみんなで♪ほくしんなめにさすところ〜と合唱が始まるのだが、酩酊状態でこれを全部囁まずに大声で叫べる人が日本全国どのくらいいらっしゃるだろうか。NHKのアナウンサーでも相当練習しないと無理じゃないかと思うのだが。急性アルコール中毒で救急搬送されなくてよかった。のどを器用に動かして飲んでいるふりがしれつとできた二十代の自分の演技力に



鹿大入学前後の時期に撮影されたと思われる私と母

あらためて感謝したい。

ちなみに余談だが、私は大学に入るのに一年を要したのと同様に出るのにも同じく一年を要した。したがって平成十七年に何とかかんとか卒業し、前号で述べたとおり三重県の乗馬クラブに就職した。それにしても卒論発表十分前のぎりぎりまでパワーポイントで発表シートを作成していたようないかげんな私がよく内定をもらえたものだ。まわりの真面目な就活生が何十社と面接を受けている中、リクナビと呼ばれた就活支援サイトに「馬」とひとこと入力して一番上に出てきた企業に申し込んだらあれよあれよと最終面接まで行ってしまった。たまたま運がよかったのだと思うしかない。就職して一年後に後輩と結婚し、平成十九年に長男が誕生。次いで平成二十一年、次男の出産を機に土日休みのない乗馬クラブを辞め、妻の地元である久留米市

へ引越し&転職し現在に至る。

その長男が今年高三となり、まもなく大学受験がひかえている。小さいころから大の虫好きで、小学一年生の作文に将来は「むしはかせ」になりたいと書いて以降まったくブレずに昆虫採取・観察・育成・標本作りを趣味としている。ひよっとすると私の競馬に対する熱意より上かもしれない。昆虫学研究室がある国立大農学部を志望しているが、はたしてどこに進学してどういった学生生活を送るのだろうか。まあ今の学生さんたちの飲み会はずっとスマートだと思っけども、くれぐれも変なサークルにひっかからないようにね。

☆鹿大時代思い出シリーズ三部作無事完結☆



(福岡県土地家屋調査士会 久留米支部
副支部長、炉ばたセイ談庵主の初孫)